

支援員だより

第1号(2007年3月)

～ 支援員は地域のリーダー ～



山口県環境生活部自然保護課
課長 中村正昭

支援員の皆さんこんにちは、自然保護課の中村です。

さて、山口県の希少な野生動植物の保護活動をはじめ、山口県の豊かな自然環境の保全に熱意のある皆様方を「希少野生動植物種保護支援員」として登録する制度を始めて2年が経ちました。この間多くの皆様に応募いただき、おかげさまで、現在271名の方々に登録いただいています。

野生動植物の保護をはじめ様々な自然環境を守る取り組みは、全世界で行われていますが、依然として、多くの野生動植物の絶滅や地球温暖化など、私たちを取り巻く自然環境は悪化しつつあります。このような中、国では、平成19年度に、第三次生物多様性国家戦略を策定し、人と自然の共生に向けたさまざまな取り組みを、NPOなどの民間団体や多くの国民の参加を得て展開していこうとしています。

山口県でも、自然保護活動団体や個人による「やまぐち自然共生ネットワーク」が設立されるなど、自然との共生に向けた県民主体の活動が展開しつつあります。これからの山口県の自然環境を守り、後世に残していくためには、県民の一人ひとりが身近な自然に目を向け、連携・協働しながら県下各地で日常的に活動を進めていくことが必要と考えています。

支援員の皆様には、ぜひ、その活動の中心的な存在として、あるいは活動を積極的に進める地域のリーダーとして活躍されることを期待します。県としても、今後、引き続き研修の実施や各種活動への参加の呼びかけや情報提供をしながら、皆さんとともに山口県の良好な自然環境を守って行きたいと思っています。

いっしょにがんばりましょう。



昨年10月、八代にナバツルがたくさん訪れることを願って、多くのボランティアの方々とともにネグラ整備に汗を流してきました。このネグラ整備は毎年行われています。支援員の皆さんもぜひ参加されませんか。(中村)

～自然の本態を知って、 野生生物の危機を救おう～



山口県野生生物保全対策検討委員会
委員長 庫本正
(秋吉台科学博物館名誉館長)

「レッドデータブックやまぐち」が公表されて、絶滅の危機に瀕している野生生物がいかに保護されるべきかが問題となりました。ここに掲載された生物たちは、注意深く見つめられないと何時絶滅するかわからない状態です。もちろん野生生物がこんな状態になったのは、さまざまな原因があるでしょう。種ごとに原因究明や環境の悪化がないかどうかといった探求も必要です。それだけに専門家の一人や二人の力ではどうにもならないでしょう。早急に県民あげて人類共通の財産である野生生物の絶滅を防ぐための対策が立てられなければなりません。こうして希少野生動植物種保護支援員制度ができあがりました。絶滅の危機に瀕した野生生物の救命人として、皆様方真っ先に立ち上がられたことに心から敬意を表します。皆様には、野生生物の保護とあわせて、さらに私たちが自然と共生して生きる哲学も学んで欲しいと思います。

古来、人は自然と向き合い、自然の探求を続けてきました。自然は奥が深く、なかなか正体を見せてくれません。野生生物は自然の掟によって護られています。だから私たちは自然の本態を知り、それに叶った保護の手をうたなければなりません。ここでは人間中心の考え方は通用しないからです。

皆様方の力が美しいやまぐちの自然を保全・再生し、後世に伝える原動力になるでしょう。

ご活躍を心から期待しております。

キムテホ
下) 金台 鶴慶尚南道知事(右端)に秋吉台の説明をする庫本委員長

(2006.11.6)



山口県、中国・山東省及び韓国・慶尚南道の三県省道は、平成19年10月頃に、秋吉台において、「三県省道交流フォーラム」を開催し、セミナーやシンポジウム、エコツアーなどを通じて、

国際・観光・自然環境の各分野ごとの交流を深めることとしています。

<入門編>

条例の内容、テキスト等を活用した野生動植物に関する基本的な知識の講義、野外研修を実施しました。

- 平成17年11月20日
秋吉台エコ・ミュージアム（41名参加）
- 平成18年 3月11日
きらら浜自然観察公園（56名参加）
- 平成18年 6月18日
秋吉台エコ・ミュージアム（36名参加）
- 平成19年 3月18日
きらら浜自然観察公園（22名参加）

■内容

- ・ 県希少野生動植物種保護条例の概要
- ・ 支援員の役割
- ・ 研修テキストを活用した講義
- ・ 野外体験活動

火道切り体験、野鳥を中心とした自然観察、大正洞の生き物観察



熱心に学習

取材にきた報道関係の方が、皆さんの熱心さに「びっくりしました」と感動していました。

支援員研修会

～支援員の学習と交流の場～



汗をかいての火道切り

<ジュニア編>

支援員の小・中学生を対象に、理解しやすい研修会を実施しました。

- 平成18年 9月10日
きらら浜自然観察公園ほか（15名参加）

■内容

- ・ 身近な地域の野生動物
- ・ 生物暦を作ろう
- ・ 山口湾干潟でのカブトガニの観察

「ほら～、ここにもおるよ」
「うわ～、ほんとじゃ」

みんな興味津々でした。



<応用編>

入門編の受講が済んだ支援員を対象に、より実践的な体験活動を中心に研修を実施しました。

- 平成18年10月29日
山口市鴻の峰地区（20名参加）

■内容

- ・ オリエンテーション
自然観察の方法等について
身近な自然の観察について
植物観察の方法等について
- ・ 鴻ノ峰にて植物観察



なるほど、なるほど..



鴻ノ峰からの眺望

－支援員の声（研修会アンケートから）－

- 県内各地で開催して欲しい
 - 対象者、分野などレベルを分けて欲しい
 - 定期的開催して欲しい
 - 野外観察を多く取り入れて欲しい
 - 植物関係の研修を行って欲しい
 - 自然の中で講義をして欲しい
 - 何をしたら良いのか具体的に教えて欲しい
 - 支援員をもっと一般にPRして欲しい
 - 支援員の役割の難しさにびっくりした
 - 自分なりにできることを考えてみたい
 - キーワードは「共生」と感じた
 - 支援員の活動や観察記録等を掲載した会報があれば良い
- ご協力ありがとうございました。
皆さんの声を大切に、工夫した取組みを進めていきます。

研修会は、来年度以降も随時開催する予定です。

まだ参加されていない方は、お誘い合わせの上、ぜひ参加してください。お待ちしております
詳細は、決まり次第お知らせします。

支援員ただいま271名！（目標1000名まであと729名）

10年間で1000人の登録を目標としている支援員。スタートダッシュは良かったのですが、正直なところ最近少し登録スピードが鈍ってます。皆さん、ぜひ誘い合って支援員仲間をどんどん増やしましょう！

271名の内訳：大人238名、高校生16名、中学生5名、小学生12名

～ 講師から一言～

入門編をはじめ支援員の各種研修会で講師を務めていただいているお二人の先生から、支援員の皆さんへ激励のメッセージをいただきました。今後ともお世話になります。

「支援員だより」発刊に寄せて

山岡 郁雄（山口県野生生物保全対策検討委員会副委員長
・山口大学名誉教授）



支援員制度が発足して早2年が過ぎました。その間、「入門編」4回、「応用編」1回、「ジュニア編」1回を行って、支援員数は271名に達しました。

研修に参加された人たちは、既にいろいろな団体に所属して活動されている方々や、個人的に自然に関心をもって活動している方々がいらっしゃるので、研修を進める側としては、心強くもあり、また逆に教えられることなどたくさんありました。

支援員として「何をなすべきか」が毎回の課題になったところですが、自然をより一層理解していただき、同時に周りの人びとにも身の回りの自然に関心を持ってもらうための「自然の解説者」になっていただくのがこの制度のねらいだと考えていただきたいと思います。そして、より多くの人に、次の世代にどうしたら「山口県の豊かな自然環境」を残せるのか、一緒になって考えていただければと願っているのです。

現代社会の科学的進展の中で失いかけた、先祖から受け継いだはずの「自然とのふれあいと共存の精神」をもう一度取り戻せるよう啓蒙活動することが支援員の役割かと思えます。この「支援員だより」が支援員になられた皆様の太い絆になることを切望する次第です。

皆さんの力で、野生動植物保護

田中 浩（山口県野生生物保全対策検討委員会委員
・県立山口博物館主任）



研修会に参加させて頂き、こんなに多く野生動植物に興味をもたれる方々がおられることに感銘を覚えました。一人一人が自

分のフィールドを持ち、観察記録をつけておられます。その情報は膨大なものになるはずで、その中には新たな発見が含まれているに違いなく、個人の体験としてしまいこんでおくのはもったいないと思います。是非、機会をみつけて発表して頂きたいと思います。それにより個人の体験が生き、一人一人のデータの積み重ねが野生動植物保護につながると思っています。私も皆さんと同じく自然が好きです。野山を歩き回り、じっくり観察し、ドキドキするような体験をいっぱいしてきました。しかし、一人の体験には限界があります。先日、「冬を生きる小動物」と題した観察会を行いました。参加者は小学生を中心に17名でしたが、約1haの博物館周辺の雑木林で、思い思いに朽ち木をはがすと、カミキリムシなどの幼虫、オオゴキブリ、ゴミムシなど、樹皮の間にはサシガメの集団越冬群が見つかりました。多くの方の眼により、同時により多くの体験ができることがわかります。多く体験を共有することでより大きな発見や感動があるはずで、皆さんの力で野生動植物保護のうねりをつくりあげて頂きたいと思えます。

— 「山口県野生生物保全対策検討委員会」とは？ —

野生動植物に関する専門的知識を有する方で構成された委員会で、山口県内の絶滅のおそれのある野生動植物の保全対策等について、さまざまな検討を行っています。これまで、山口県版レッドデータブックの作成、県希少野生動植物種保護条例の策定、指定希少野生動植物種の指定などに尽力されて来られました。山口県の野生動植物の保全のための重要な委員会です。

◆委員の皆さんと専門分野◆

西村祐二郎(自然保護) 庫本 正・田中 浩(ほ乳類) 小川孝生・小林繁樹(鳥類)
山岡郁雄(両生類・は虫類) 酒井治己(淡水魚類) 林 健一(甲殻類) 増野和幸(陸・淡水産貝類)
小林 淳・西山伊和禰・三時輝久(昆虫類・クモ類) 勝本 謙・眞崎 久・南 敦(植物)

— 支援員の皆さんへ —

支援員制度ができてはや2年。遅くなりましたが、「支援員だより」発行の運びとなりました。

今回は、皆さんへのメッセージやお知らせ的な内容となっておりますが、今後は、皆さんからの意見や報告などを積極的に盛り込みたいと考えていますので、よろしくお願いします。

発行)

山口県環境生活部自然保護課

自然・野生生物保護班

TEL083-933-3050 FAX083-933-3069

E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

※住所変更等ありましたら上記までお知らせ下さい。





= ご存じですか? 自然環境学習拠点施設 =



山口県には、豊かな自然環境に恵まれた自然公園の中に、子どもたちをはじめとする公園利用者が、自然とふれあい、自然観察や自然環境学習を通じて自然を学ぶことのできる自然環境学習拠点施設が3ヶ所整備されています。家族や友人などといっしょにどんどん活用してください。親切な職員が皆様をお待ちしています。

— きらら浜自然観察公園 —

シベリアやカムチャツカから日本列島を縦断し、東南アジアに向かう渡り鳥たちと、モンゴルや中国から朝鮮半島を經由し、四国・九州へ横断する渡り鳥の「交差点」に位置し、四季を通じて多くの野鳥が訪れるきらら浜。当園はそこに生息する多くの生き物と自然環境を守りながら、自然を観察し、ふれあい、親しむための施設です。ビジターセンターでは、レンジャーの分かりやすいガイドで、望遠鏡を使って気軽に野鳥を観察することができます。また、カフトガニ・トビハゼなどの魚類・カニ類などを間近で観察できる「きらら浜の生きものコーナー」もあり、子供から大人まで一日中楽しめます。毎週土日・祝日には、ガイドウォーク・工作教室・紙しばい・こどもわくわ



くクラブ・ビデオ上映など、イベントが盛りだくさん。特に、自然の素材を活かした月替わりの工作教室は大人気です。他にも、バードウォッチング入門・干潟の生き物観察会・昆虫観察会・天体観測教室など、年間を通じて様々な行事を行っています。ぜひ、きらら浜自然観察公園へ、ご来園ください。

〒754-1277 山口市阿知須509-53 TEL0836-66-2030 ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~kilala-h/>

— 秋吉台エコ・ミュージアム —



秋吉台エコ・ミュージアムは山口県を代表する観光地、秋吉台の麓に平成12年4月に開館しました。ここでは秋吉台や洞窟内の発達の歴史やそこに生きる動植物の紹介を実物や模型などで解説するエコ・ミュージアムセンターと自然にふれあう施設として、園地や歩道が整備されているエコ・フィールドがあります。子どもたちをはじめとして多くの人々が豊かな自然環境の中で自然とふれあい、自然を学ぶことのできる施設として、今日まで県内外の多くの人々に利用されています。また自然環境学習会を毎月開催しております。学習会といっても堅苦しいものではなく四季折々に

行う秋吉台の散策や洞窟探検、昆虫教室、標本作り、クリスマスリースづくりなど子どもから大人まで多くの人に楽しんでいただけるものばかりです。秋吉台のすがすがしい空気、その地下にある神秘的な洞窟の空気、この地域の温かい人情にふれてみませんか。



〒754-0302 美祿郡美東町大字赤字檜木埜 TEL08396-2-2622 ホームページ <http://www.c-able.ne.jp/~mitou-14/>

— つのしま自然館 —

自然館から海を眺めれば、透明度の高い青い海。きれいな白い砂浜には、春期には南方から対馬暖流にのり、熱帯系、暖流系の幼貝が流れてくる。波打ち際は、昭和天皇が名前をつけられたコリヤ貝やきれいなタカラ貝などが採集できます。自然館には、角島近辺や世界の珍しい貝の標本が約800点、90年振りの発見となる新種ツノシマ鯨の忠実な骨格標本、塩水の影響にも耐える仕組みを持つ珍しい植物などが展示されています。また、朝鮮半島にも近いことから、渡り鳥の中継地としても知られ、鷹



の渡りの時期には1日数百羽が観察できます。角島大橋の開通により便利になった反面ダルマガクなど大切な植物の盗掘も見られるようになりました。このため、平成14年からは、地元の角島小学校の協力の下、盗掘された場所でのダルマガクの再生など、角島の貴重な植物の保全に取り組んでいます。

自然を満喫できるつのしま自然館へぜひおいで下さい。心身ともに癒されますよ。

〒759-5332 下関市豊北町大字角島字飛渡893番地の1 TEL0837-86-0430

イベント情報! —各施設のイベント情報です。ぜひ参加ください。詳細は、各施設へお問い合わせください—

日	時	内 容	場 所	場 所	き=きらら浜	エ=エコ・ミュージアム	つ=つのしま
4/8	10:00~12:00	バードウォッチング入門・始めよう!	き	4/30	9:00~12:30	自然観察会(海岸植物の観察)	つ
4/8	開館中随時	竹でなにができるかな(工作)	き			~角島エコフェスタに参加しよう!	
4/22	9:00~12:00	春の妖精「すみれ」	エ	5/6	10:00~12:00	バードウォッチング入門・留鳥の子育	き
		~草原のすみれを訪ねて歩く	エ	5/12	9:00~13:00	自然観察会(海藻採集と標本)	つ
4/29	9:00~16:00	きらら浜自然観察公園まつり	き	5/13	9:00~12:00	きらら浜の新緑と野鳥を訪ねて	き
		~朝市・パチミシぼり・ミニコンサート	き	5/13	9:00~12:00	カエルとあそぼう	エ
		・バザー・バードウォッチング	き	5/27	9:00~15:00	エコツアー(内容未定)	エ